

都市再生整備計画 事後評価シート
玉里・小川地区

茨城県小美玉市

平成27年2月

様式2-1 評価結果のまとめ

金額: 百万円

都道府県名	茨城県	市町村名	小美玉市	地区名	玉里・小川地区			面積	558ha
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	1,723.0	国費率	0.4
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名						
			道路((仮称)田木谷上玉里線)						
			道路(市道玉5328号線(小川駅バスターミナル))						
			地域生活基盤施設(小川駅バスターミナル(常陸小川駅構内))						
		地域生活基盤施設(地域防災施設(市立小学校耐震補強))							
		地域生活基盤施設(地域防災施設(市立小学校耐震補強))							
	提案事業	地域創造支援事業(物産・交流施設(常陸小川駅構内))							
		事業活用調査(常陸小川駅活用調査・事業効果分析)							
	新たに追加した事業	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	地域創造支援事業(物産・交流施設(常陸小川駅構内))	空港周辺に「空の駅」を建設することにより削除	影響なし			
		基幹事業	道路(市道玉5328号線～(仮称)川中子線)	バス専用道の小川駅バスターミナルへの利便向上を図るため、鉄道跡地の新設道路整備を追加する。	影響なし				
			道路(市道玉0888号線)	霞ヶ浦の自然資源を生かした交流拠点とする(仮称)大井戸湖岸公園整備に伴い、進入道路の拡幅等の道路改良整備を追加する。	影響なし				
			公園((仮称)大井戸湖岸公園)	貴重な資源である霞ヶ浦の自然環境を活かした水辺の交流拠点とするため、公園施設整備を追加する。	交流拠点の形成として新たに公園を整備するため、公園面積を拡大する指標を追加した。				
			公園(玉里運動公園)	既存の運動公園に係る機能拡大を図るため、施設整備を追加する。	公園の施設環境の充実を図ることから、公園面積の拡大が見込まれるため、数値目標を3.8㎡/人から13.0㎡/人に修正した。				
			地域生活基盤施設(玉里バス停ポケットパーク)	整備・運行されている「かしてつバス専用道」における更なる利便性向上のため、利用者の待合・休憩施設となるポケットパーク整備を追加する。	影響なし				
地域生活基盤施設(沿道案内板整備)			小川駅周辺から霞ヶ浦沿岸への周遊誘導を図るため、沿道案内板整備を追加する。	影響なし					
提案事業		霞ヶ浦湖岸道植栽帯設置	霞ヶ浦の眺望をより豊かにし、新設公園との一体化により新たな交流形成を図るため、湖岸への桜植樹に必要な植栽帯設置を追加する。	影響なし					
交付期間の変更		当初	平成22年度～平成26年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	—				
変更		なし							

	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	指標	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	地区内移動時間の縮減	分	10	H21	7	H26	—	7	◎	あり ● なし	田木谷上玉里線や小川駅周辺の整備により、国道355号と県道紅葉石岡線交差点の混雑が解消され、地区内の移動時間が削減することにより、快適なまちとなる。	平成27年5月
	指標2	来訪者数	人/日	100	H21	150	H26	—	120	△	あり ● なし	当初想定していなかった県立小川高校の廃校により関鉄グリーンバス利用者が減る中にもかかわらず、小川駅来訪者が当初計画策定時より増加していることは評価できる。	平成27年5月
	指標3	公共施設の耐震化率	%	44.1	H21	90.0	H26	—	85.7	△	あり ● なし	災害時には避難所となる小中学校の施設の耐震化により、市民が安全、安心に暮らせるようになった。	平成28年3月
	指標4	公園面積の拡大	m ² /人	10.4	H22	13.0	H26	—	13.3	◎	あり ● なし	交流拠点となる公園が整備されたことにより交流環境が創出され、交流人口の拡大が期待される。	
	指標5										あり ● なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	住民参加プロセス		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築		—				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

玉里・小川地区(茨城県 小美玉市) 都市再生整備計画の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
安心快適で活力あるまちづくり 目標1：道路、公園、広場、避難所兼用集会所など根幹的な都市基盤の整備により安全、安心、快適にくらせるまちづくりの推進 目標2：文化、歴史、自然と共生した交流環境の創出 目標3：空港や公共交通機関の活用による交流人口拡大		地区内移動時間の縮減	分	10	H21	7	H26	7	H26
		来訪者数	人/日	100	H21	150	H26	120	H26
		公共施設の耐震化率	%	44.1	H21	90.0	H26	85.7	H26
		公園面積の拡大	m ² /人	10.4	H22	13.0	H26	13.3	H26
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の拡大のために、更なる交流拠点の整備が必要である。 ・地域資源を生かした地域のPR等が必要である。 ・小川市街地の防災機能の強化が必要である。 								
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ol style="list-style-type: none"> 効果を持続させるための施策 <ul style="list-style-type: none"> ・市民が快適に生活できる都市基盤施設の整備や市民の利便性を高めるための商業や公共施設などの立地を図る。 改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・更なる交流拠点の整備やネットワークの整備による回遊性の創出を図る。 ・歴史的資産を生かした賑わいの創出を図る。 ・市街地における防災機能の強化を行う。 								